

【資料6】今後の検討に向けた方向性

～ 各金利指標の実現性に沿った時間軸、それを踏まえた選択肢の検討、認識された諸課題への対応 ～

- サブグループからの報告を踏まえれば、ここまでで整理された円金利指標のいずれの選択肢も、2021年末以降のLIBORの存続に対する不透明感がある中の代替参照金利として、現時点では排除されない。
- 今後、金融市場参加者や金利指標ユーザーが金融商品や取引の性質を踏まえて円金利指標を適切に選択し利用していくために、日本円以外の通貨の金利指標に関する海外の検討動向にも目配りしつつ、以下の取り組みを進めていく必要がある。
 - ✓サブグループからの報告によると、参照金利として満たすべき要件により適合すると思われるのはターム物RFR金利だが、そのような金利指標の構築は、今後相応の時間を掛けた、参照金利の信頼性確保に向けた市場参加者および金利指標ユーザー全体の計画的な取り組みが前提となっており、具体化に向けて 更なる検討を進める。
 - ✓一方、2021 年末以降にLIBOR呈示が停止される可能性がある点を踏まえ、足許でも可能と思われるO/N RFR複利の利用開始に向けても、サブグループから報告された課題および会計処理も含めたシステム対応・事務見直しの必要性も鑑みつつ、金利指標の仕様の検討および実務上の課題の整理や対応選択肢の検討を進める。
 - ✓更に、LIBOR呈示停止時に既存契約の参照金利をLIBORから代替金利へ変更していく、所謂フォールバック対応については、リーガル面や会計面を中心に課題認識されたとサブグループより報告されており、今後、課題の整理や対応選択肢について、具体的検討および対応を進めていく。

[ご参考:円金利指標の選択肢の対応方向性と時間軸]

参照金利の選択肢		金利の決定 タイミング	実現性	今後の対応方向性と時間軸 当面の取り組みや課題 ―――→ 2019年以降 ―――→	
O/N金利	(1) O/N RFR複利 (前決め)	前決め	足許でも 利用可能	✓ 金利の参照期間が異なる点も鑑みた、 金利指標の仕様の検討	ターム物RFRの構築まで、 暫定的利用が想定されるか (ただし、後決めについては、 既に実績のある海外の動向 も見据える必要)
	(2) O/N RFR複利 (後決め)	後決め		✓ 金利後決めに適応する為の、 未収利息の会計処理も含めた システム対応・事務見直しが必要	
ターム物	(3) ターム物RFR金利 (スワップ)	前決め	今後 新たに構築	✓ 金利指標の仕様の検討 (評価対象市場の特定、 指標導出プロセスの確立等)	参照金利の信頼性確保に 向けた、市場参加者および 金利指標ユーザー全体の 計画的な取り組みが課題
	(4) ターム物RFR金利 (先物)			✓ 公表開始時期の検討 ✓ 既存商品におけるヘッジが難しい 場合、ターム物金利を参照する スワップ市場の創設・活性化が必要	
	(5) TIBOR		既存	(継続して利用可能)	